様式６

幼児教育長期派遣通信　３学期号

発行　令和８年３月１３日
東広島市立下黒瀬小学校　仁井　貴士（派遣園：広島大学附属幼稚園　東広島園舎）

１　３学期の研修内容

(1) 園内研修→年長担任として子供理解と環境を大切にした保育実践
園内外環境整備、園行事参加、保育カンファレンス
ESD に係わる研究（研究会）、文化多様性にかかわる研究
保護者向け対話会など

(2) 園外研修→園外保育引率（東広島市立西条小学校）　西条町内幼保小連携会
下黒瀬小学校区の幼保小連携強化の取組
学生向け講義、校内研修実施　研修会講師　幼保小連携担当者研修
長期研修発表会（かけはしシンポジウム）
近隣園・所の先生方と協働した単元づくり　授業公開

２　研修を通して

幼児教育長期派遣研修２年目が終わろうとしています。２年前、幼稚園に派遣される前の自分と２年間の長期研修を終えようとしている自分とでは何が変わったのか？ということを考えてみると、頭に浮かぶのは「子供と環境への理解」です。私は、小学校教諭の前は幼稚園教諭であり保育士でした。20 代に経験した保育者としての「子供と環境への理解」、30 代に経験してきた小学校教諭としての「子供と環境への理解」、そして、40 代に様々な経験をしてきた中での「子供と環境への理解」、私自身の環境が変わり、立場が変わる中で、自分の中での理解を更新していくことで「子供と環境への理解」の本質に迫っていくことができる時間となっていきました。

今年度は、「子供を起点とした、遊びと学びの「融合」の実現～「年長担任」と「コーディネーター」の立場を通して～」という研修題目のもと、派遣先の附属幼稚園では年長担任、所属小学校では、接続コーディネーターとして研修を行ってきました。「遊びと学びの融合」をどうやって実現し、多くの先生方に伝えることができるのかという問いをもち、日々、クラスの年長児とかかわり、見えてきた具体的な姿から小学校での授業の在り方、環境の在り方などを深く考え、実行してきました。

２年間の研修を、自分なりに全力で取り組んできました。そうやって過ごしてきた２年間を振り返ると、そこには、幼児期の子供たち、そして小学生の子供たち、双方に笑顔が溢れていました。幼児教育と小学校教育がつながることでの可能性を私はとても大きく感じています。それは、私だけではなく、多くの先生方が思われていることだということも、研修の中でたくさんの先生方と出会い、対話し、議論していく中で実感することができました。

現代社会は変化が激しく、正解がひとつに決まらない問題が増えている中、幼児教育と小学校教育がつながることで、自他に手を指し伸ばし、難しいことに対しても向かっていくことができる人が育つ環境ができていくと思っています。そのために、これからも学び続けながら、本質を問う行動を起こし続けていきたいと思います。

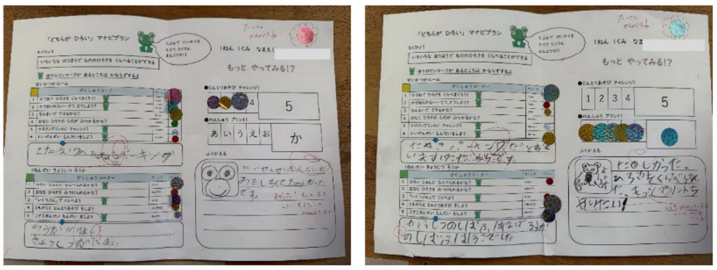
様式６

○学びを自分でデザインする

１年生の算数科「どちらがひろい」の学習において、児童が学びを自分でデザインできるように、マナビプラン（学習計画表）を用意し、自分で選択できる環境を作って実践しました。幼児期の遊びを通して培ってきた様々な力を自分で発揮しながら、友達と対話し、学ぶことを楽しむ姿を見て、子供は学ぶ力をもっていると実感しました。

夢中で学ぶ（遊ぶ）中での試行錯誤は、感覚、感情、行動を通して体感的に得る幅広い経験となり、人に伝えたい！という原動力となっていました。そういったプロセスによって理解が深まり、生活に汎用できる応用力や創造力が高まっていくのだと考えています。

【マナビプラン】→学びの足跡が可視化される



子供は学ぶ力をもっている！

【多様な実体験】→様々な形や材質の広さを比較

【自分で選択できる】→学びを自分でデザインする

夢中で遊ぶ中での試行錯誤

↓

体感的で多様なインプット

頭だけではなく、感覚・感情・行動を通して得る幅広い経験

↓

人に何かを伝えたい！という原動力

多様なアウトプット → 理解が深まり、応用力、創造力が高まる

３　まとめ

幼児期には、子供自らが「人」「もの」「こと」の環境に働きかけながら、遊びを通して学んでいます。そこには、やってみたいという主体性があり、多様な試行錯誤があり、豊かな人とのかかわりがあり、体験を通して学ぶ身体性があります。こういった経験を通して「環境を創る力」と「感じる力」が育っていくのだと考えています。

「環境を創る力」は、子供が自ら学びを創る力につながっていくと考えます。今回の小学校での実践を通して、教師が子供の多様な姿を把握し、それぞれの子供たちが自己発揮できるような柔軟で余白のある環境をつくることで、自ら環境と関わり学ぶことを楽しむとともに、「わかった」という実感を味わっていくということが分かりました。そして、幼児期に培った「感じる力」は、小学校以降の様々な「人」「もの」「こと」の出会いへの意欲となり、より豊かに学ぶことにつながっていくと思っています。

〈乳幼児教育支援センターより〉

幼児教育の「環境を通して行う教育」という考え方を小学校の授業に取り入れて実践することで、子供たち自らが環境と関わりながら学んでいましたね。このように、小学校が０からのスタートではなく、子供は生まれながらに学ぶ力をもっています。だからこそ、その力を発揮できる環境を整え、「自分の力でできた」という成功体験を積ませることが大切です。これからも主体的・対話的で深い学びの実現に向け、環境の視点で教育活動の改善を図っていただくことを期待しています。